



2015 MFJ全日本ロードレース選手権第2戦
九州モーターサイクルフェスタ2015 in オートポリス
TOHO Racing with MORIWAKI レースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

4月25日(土曜日) 天候：晴れ 路面：ドライ

公式予選／1' 48"645 5番手

4月26日(日曜日) 天候：晴れ 路面：ドライ

決勝／4位 (19周)

開催地：大分県・鈴鹿サーキット

入場者数：16,562人 (土・日合計)

開幕戦鈴鹿2&4レースから連戦で迎えた第2戦オートポリス。九州阿蘇の山間部に位置する、このサーキットは、不安定な天候に悩まされることが多いが、このレースウィークは、全て清々しい晴れとなり、絶好のコンディションのもとで行われた。

今回、TOHORacing with MORIWAKIは、オリジナルのガソリタンクを投入。ガソリンの搭載位置を低くし、重量配分が変わったことで、よりよい操安を狙っているものだ。まずは、このタンクに合わせたセットアップと開幕戦鈴鹿で得たデータを生かしセットアップを進めていく。また今年から登場したモリワキエンジニアリング製の新型マフラーが、すごく優れており中速から高速までの伸びが格段に上がり、ファクトリーマシンとの差が格段に縮まっていた。初日の2本目には1分48秒889をマークし4番手と好位置につけていた。



公式予選はノックアウト方式で行われ、まずは全車が走行するQ1が始まる。山口は、ちょうど速いライダーのいる集団に入ると、5周目の計測で1分48秒815をマークするとピットイン。その直後の1コーナーでオイルが出たため、2台が転倒するアクシデントが発生する。直前まで転倒したライダーと一緒に走っていただけに、山口もアクシデントに巻き込まれる可能性もあった。その後、セッションは再会され、マシンのセットを進め4番手でTOP10チャレンジに進出する。ここでタイムを更新しようと、ソフト目のタイヤをチョイスするが思ったような走りができずに自己ベストを更新できない。それでも1分48秒645をマークし5番手につけた。アベレージタイムはいいだけに、決勝に向けては、いい手応えを感じていた。

決勝日も快晴となったオートポリス。日差しが強く路面温度も上がったためタイヤに厳しいレースになることが予想された。スタートはまずまず決まり5番手で1コーナーに進入。序盤から山口を含む5台がトップグループを形成する。5周目には、前を走っていた選手が転倒したため、山口は4番手に浮上する。さらにトップ争いについていくが、レース中盤辺りから厳しい状態になってくる。ファクトリーマシンについていくためには、後半セッションのコーナー部分を頑張らなくてはならず他よりタイヤへの負担は大きかった。それでもレース終盤には、前を走る選手との差を詰めていたが追い付くことはできずに4位でチェックカー。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「予選では、1発のタイムは出ませんでした。前戦鈴鹿の反省点を生かして順調にアベレージタイムは上がっていました。TOHO オリジナル燃料タンクを今回から投入しましたが、重心位置もよくなりバイクも軽く操れるのでコンパクトにコーナリングできるようになってきています。KYBさんのサスペンションにも助けられ挙動も安定しているので、次回のツインリンクもてぎこそHonda勢でトップの成績を残したいです」

チーフメカニック 戸井田剛コメント

「レースは、中盤までトップグループを走行することが出来ましたが、レース中盤以降、徐々に離されてしまい、今回も表彰台に上がることが出来ず残念な結果となってしまいました。次回もてぎまではインターバルがあるので、もてぎでは表彰台に上れるように、今回の問題点をもとに車両を改善していきたいと思います」

総監督 福間勇二コメント

「表彰台は逃してしまいましたが、調子は良くアベレージもよいと思います。今回のデータを元に、次戦もてぎはさらに良い結果が出せるよう、チーム一同努力して参りますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます」



株式会社 TOHO
TOHO Racing with MORIWAKI
担当 野口